

『学校力向上に関する総合実践事業』コーナー その5

今号は「本校の取組（学校力向上や校内研究）の成果・課題の積極的発信」について紹介します。

7月2日（水）檜山・渡島管内から57名の教育関係者の参加のもと、公開研究会を開催しました。



本研究会は、本校教員による国語と算数の公開授業（7学級）から開始しました。3時間目、様々な学級の授業や子ども様子をみていただきました。参観者のアンケートからは、

- ・子どもたちがのびのびと発言できる学級づくりを心がけているのが伝わってきた。
- ・子どもたちの学習に臨む姿勢は、とても素晴らしいと思います。
- ・どの授業も指導する内容を明確にし、きめ細かな指導がされていました。

などの感想をいただきました。

4時間目は、4年国語と6年算数の「特設授業」を参観してもらいました。

4年国語では、『思いや願いが詰まったお菓子の名前をつけよう』という課題のもと、後日実施する1/2成人式を目指して「優しい大人・努力する大人・しっかりしている大人」からどんなお菓子をイメージするか考えながら、ぴったりなお菓子の名前について話し合いました。グループで熱心に話し合ったり、進んで発言する子どもたちの姿が印象的でした。



参観者のアンケートからは、

- ・子どもの発言に対して先生が温かい言葉で返し、子どもたちの表情もとてもよい。
- ・話し合いの仕方について、どう指導していくのか、考えるきっかけになりました。

などの感想がありました。

6年算数では、『速さと道のりから、時間を求めよう』という課題のもと、担任とのやりとりやペアで説明し合いながら、[時速25kmの原付が、江差から400km離れた旭川まで行くのにかかる時間を求めましょう。（1問目）]など3問の問題に挑みました。それまで習ったことを活用しながら、何とか解決しようとする子どもたちの姿が印象的でした。



参観者のアンケートからも、

- ・問題に向かう子どもたちの真剣さが素晴らしかったです。
- ・習ったことをしっかり使うことができていた。教師が子どもたちに与える情報も、的確であったと思います。

などの感想がありました。

5時間目には、学校力向上アドバイザーである野中信行氏による国語の提案授業（5年教室にて）がありました。詩「なくぞ」を題材に、この詩の人物は「強いのか、弱いのか」を自己決定させ、その理由も考えさせながら、テンポよく音読をさせていきました。大勢の参観者の前でしたが、5年生は全員が素早く詩をノートに書き写したり、詩を書いた人物の心情に配慮しながら、元気よく音読をしている一生懸命な姿が印象的でした。



子どもたちが熱中して取り組むように、「小刻みな活動」を「テンポよく」取り入れ、子どもの活動には必ず評価の言葉を伝えながら進める展開は、「さすが！」と思わせるものでした。今後の先生方の授業改善にも役立たせることのできる、価値ある授業でした。

参観者のアンケートからは、

- ・子どもたちの心が徐々に野中先生や詩の世界に引きつけられていく様子でした。
- ・始めは自信がない様子の子どもの、野中先生のフォローにより、自信をもって発表できるようになっていったことがすごかったです。

などの感想が聞かれました。

〔※公開研究会については、次ページに続きます。〕